



124号

2007 / 6 / 1

日中文化交流市民サークル 'わんりい'

東京都町田市能ヶ谷町1521-58 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>

Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp



〈水上の交易〉 タイ国ダムヌアンサドアクにて

撮影：田井光枝

‘わんりい’124号の主な目次

北京雑感その(15)「車とマンションの購入」……………2

私の調べた四字熟語(12)「唯唯諾諾」……………3

「陝北女娃」通学路(2)……………4

中国を読む(42)「史記-古代の人びと」……………7

松本杏花さんの新句集「余情残心」と漢俳にいて…7

韓国ドラマを旅する……………8

ものしりノート(1)「卍」……………9

私の四川省 一人旅(7)(稻城 I)……………10

松本杏花さんの句集「余情残心」より……………12

スリランカ紹介(9)
「コロomboの街路樹は簡単に倒れる!」……………13

アフリカとの出会い(17)
「アフリカ人の憧れバラク・オバマ」……………14

[活動報告]「あさおサークル祭」……………15

‘わんりい’ 掲示板……………16

♪「中国語で歌おう!会」6・7月の歌♪

「昂-すぼる」(谷村新司 作詞作曲)

「昂」は谷村新司氏が中国大陸を想定して作詞作曲をしたといわれ、どこか中国的なメロディの「昂」は中国でも大ヒットしました。6月と7月と2回に分けてどなたも歌えるようにご指導いただきます。

中国語訳の歌詞を‘わんりい’6月号9ページに掲載しましたのでご覧下さい。

於：まちだ中央公民館7F・第一音楽室

JR横浜線町田駅八王子寄り改札口徒歩2分、小田急線南口徒歩5分町田東急裏109ファッションビル7F

6月15日(金) 19:00～20:30

7月13日(金) 19:00～20:30

指導：趙鳳英 (zhào fengying) 録音機をお持ち下さい。

●「中国で歌おう!会」於：まちだ中央公民館

毎月1回、主として第3金曜日開催(変更あります)

19:00～20:30 会費(月1回):1,500円 体験無料

*初めてご参加の方は、会場、日時など‘わんりい’事務局へお問合せ下さい。

友人が新車を買いました。ディーラーと車検の登録事務所へ行き、登録は、自分でお金を払って手続きをします。ディーラーはサポートしてくれますが、手続きはあくまでも本人が行います。

当日、「手続きをしてから新車に乗って行く」と言うので楽しみにしていましたが、現れたのは、あのモータープールにあったのと同じく、薄っすらと土埃を被って、ボンネットに指で字が書けるような車でした。とても新車には見えませんでした。車内のシートにはビニールが掛けられ、床にはマットの代わりにダンボールの切れ端が敷かれていて、あえて言えば、これが新車の証でした。

北京の車のディーラーは、買主から代金を現金で受け取るか、銀行ローンの手続きを確認してから、モータープールで該当の車を選び出し、そのまま、買主と一緒に車検登録場へ行って、登録手続きを済ませ、その場で車を引き渡して、取引完了とします。この移動の間、日本の「仮ナンバー」のようなものを使用することはありません。法規上どうなっているのか分かりませんが、北京の街を走っていて、仮ナンバーに相当するナンバープレートを見たことはありません。その代わりに、ナンバープレートの無い車が走っているのには、何回も遭遇しました。状況から判断して、「登録前の車が路上を走る時は仮ナンバーが必要」という規定はなさそうです。

埃だらけの新車を手に入れた買主は、カー用品のお店に行って、先ず、付属の洗車場で洗車をして、豊富な在庫品の中から、フロアマットや、窓ガラスのフィルムなどを選んで装着します。カー用品のお店は、大規模で品数も多く、どんなものでもありますが、取り付け等は、あまりやっていません。その代わりに、小規模な車内装専門店があちこちにあって、お客が、カタログで選んだ品で車の内装一式を請け負っています。こんなお店に作業を依頼して、初めて、日本で言う新車になります。

車に乗り始めて、機械的な不具合が出た時は、メーカー直営の修理工場へ持ち込みます。この修理工場は郊外にあり、自社生産各車種の修理点検を実施しています。この修理工場は、広大な敷地にメーカーの生産車が並び、一部に修理用施設を備えていて、メーカー直営のモータープール兼サービスステーション、或は総代理店のようです。日本の系列販売店本社のように

もありますが、街中に営業所を置いて販売したり、修理したりすることはなく、街中では、規模の小さな修理工場を指定して、修理を代行させているようです。

中国における自動車販売の仕組みの詳細は知る由もありませんが、概略を纏めて見ると、北京では、街中で日本のような自動車販売店を見かけることは非常に少なく、偶にあっても、ショールームとしての機能が主で、一般の人々がそこで車を買うことは殆どありません。そこでは定価販売をしていますから。自動車を買う時、人々は郊外に幾つかあるモータープールへ行きます。そこには各メーカーの販売事務所もありますが、少しでも安い車を手に入れたい人々は、メーカーの事務所で車を見てから、周りで2～3坪の事務所を構えて商売をするブローカーのところで価格交渉をして買います。そして、殆ど生産工場から出荷されたままの車を、前述のようにして内装を施して、マイカーを作り上げるのです。

最近北京で進出が著しいのは、カー用品ショップ・車の内装業者、それに洗車場です。カー用品ショップは、売り場面積も品揃えも、日本のそれに引けを取らないどころか、それ以上だと感じました。2005年の時点では、2階が売り場、1階が洗車場というところが多かったのですが、今頃は、同時に、内装を手がけるお店も増えたようです。利用する者にとっては、それが便利ですし、販売店にとってもメリットがありますから。

以前の北京では、埃だらけて、ドアノブやバンパーの壊れた車が沢山走っていましたが、今ではそんな車、全く見なくなりました。春先の黄砂が激しかった日の翌日でも、殆どの車がピカピカになって走っていたそうです。綺麗になることはいいことですが、環境の面から、洗車に費やされる水の量を考えると、なんだか空恐ろしくなります。勿論、洗車には中水(再生水)を利用しているのですが、北京における車の変化があまりに急激なので、つつい環境への影響まで心配してしまいます。

「車の内装」に関連して、もう一つ、日本と北京で全く違うところがあることをお話したいと思います。関連と言っても、「車」ではなく「内装」に関するものです。中国では、マンションの販売は、建物の外側が出来た段階、つまりコンクリートがむき出しのまま引渡しをします。販売価格には内装費は入っていないので、

購入者は、物件を引き取った後、自分で内装をして、住める状態にします。実際には、建築士に依頼し、希望を出しながら内装の設計を進めます。買ったスペースには、建物の構造上必要な壁面と柱しかありませんから、部屋のレイアウトは自由に出来ます。

間取りや内装が決まったところで、建築士に大工さんや、左官・電設・水道等の職人さんを紹介してもらい、個別に作業を依頼します。そして、何より大変なのが、職人さんと一緒に、建材の卸売り市場へ行って、内装に必要な材料を選んで買ってこなければならぬことです。床材や浴室のタイルは勿論、ドアノブや水道の蛇口まで、自分で選んで買わなければなりません。職人さんにアドバイスを受けますが、一つ一つ自分で買

うのは大変な労力を要します。日本のように一括して工事を任せるシステムが無いので、北京で新しいマンションを買うのは本当に大変なことです。

友人がマンション購入で苦労したのを身近で見て、若し、私が、北京で事業を起こすとしたら、建築のコーディネーターをやりたいと思いました。人々の役に立って、確実な需要が見込める事業です。尤も、最近、私が住んでいるマンションの最上階、所謂ペントハウスがなかなか売れないので、不動産会社が内装を全部済ませ、日本のマンション販売のようなことを始めました。

そのうちに、北京のマンションも、日本のように内装をして売り出すようになるかも知れません。

私達は周囲の人が、事の善し悪しにかかわらず、他人の言うがままに従う様子を見ていて、日常よく次のような言い方をします。

「あの課長は部長の命令に、いつも唯々諾々と従っている。少しは自分の考えを主張すれば良いのに。」

「私の母は父の言うことなら何でも唯々諾々と従ってしまうので、歯がゆい気持ちだ」

「うちの会社の社長は、△△会社の要求することだったらどんなことでも二つ返事で唯々諾々と従ってしまうから困った」

このように「唯々諾々」の日常の用例には枚挙にいとまがありません。

改めて「唯々諾々」の意味を辞書で確認しますと次のように載っていました。

三省堂「現代国語」には、「しっかりした考えをもたず、何事も他人の意見に従うようす。唯、諾とも ハイ の意味」

小学館「中日辞典」では、「唯唯諾諾 唯々諾々 二つ返事、少しも逆らわず相手の言いなりになるさま。」

日本語、中国語とも殆ど同じ意味に使われていることが分かります。

そこで、次に出典を調べてみました。出典は「韓非子(かんぴし)八姦編」です。

出典の八姦編では、姦臣が君主の心をとらえて私欲を満たす八つの方法とそれを防ぐ対策を説いてい

ます。計略の1つが、君主の近臣を利用することで、姦臣は、裏では近臣たちに黄金や宝石を贈って手なづけ、表だっては彼らのために法を曲げてやり、彼らの機嫌をとることでその力を利用し、君主の心を自分たちの都合の良いように変えるとしています。

この中で述べられる近臣を評した文に「唯唯」、「諾諾」の文字が見られます。その部分の原文を以下に示します。

「此人主未命而唯唯,未使而諾諾」

意識：従者や付き人は主人が何も命令していないのに〈はい〉と言い、何もさせないうちに〈はい〉と言い、主君の意向に先回りして様子や顔色をうかがう者達である。

・・・「唯唯」も「諾諾」も、「はい、はい」と返事をすることを表します。

〈注記〉

韓非子：中国戦国時代の法家である韓非の著書。全五十五篇、十余万言からなる。始皇帝を感激させた書物は「孤憤篇」「五蠹篇」の二篇である。「初見秦篇」については合従連衡・韓を扱った記述についての見解から韓非のものではないとする説もあり、論争となっている。内容は春秋～戦国時代の思想・社会の集大成と分析とも言えるものになっている。

後世では、諸葛亮が幼帝劉禪の教材として韓非子を献上している。ちなみに、「矛盾」という言葉は韓非子の引用からである。

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より引用

「私が調べた四字熟語」
13
唯唯諾諾(いいたくたく)

三澤 統

暫くして私の連れの郭如林^{guō rú lín}が家に鍵を取りに戻った男の子と共に駆けつけてき、子ども達は再び苦勞の多い旅に出発しました。時間は10時半で、家を出てからすでに1時間半になります。

細く蛇のようにくねくねと続く山道を私達一行は道なりに連なって進んで行きます。足元には相変わらず黄河が流れていますが、岸辺の僅かな斜面に雑草が生えていますので心理的にはかなりの安心感があります。岩崖を上る時は、子供たちは手と手を繋ぎ、上に行く子は下から来る子を引っ張り、下の子は上の子を押し上げ、それが当たり前のようにお互いに助け合っています。

一行は前へ進んで行きますがみんなあまり話をしません。私が一緒だからかもしれません。がなにか堅苦しい感じですが。11時半、よく知られた乾坤大湾に到着しました。山の上に碑が立っているのが遠くに見えます。郭如林が石碑のところで休もうというので子供たちを石碑のところで皆一緒に記念撮影の後、学校でお腹が空いた

時に食べるために持参のオヤツをそれぞれ出し食べました。

多数の子供たちは前日自分の家で作った‘^{miàn gē da}面疙瘩’（小麦を練ってビー玉状に丸め、黄土と一緒に炒ったもの）を出し、又ある子は‘^{guā zǐ}瓜子’（カボチャやひまわり、スイカなどの種を炒ったもの）を出し、私も皆に^{なつめ}俵の実を出しました。私が俵を持ち歩くようになったのはこの地に来てからです。私は幼い頃から1日3食の習慣ですが、このあたりでは農家も学校も1日2食の食事なので、日中の飢えを満たすささやかなものを用意しているのです。この地で盛んに採れる俵は正にぴったりで、お金もかかりませんし、どの家にもあるので好きなだけ取り、袋が一杯になればそこで止めるという具合です。

子供たちは俵は食べ飽きていて、皆‘面疙瘩’を食べました。‘面疙瘩’は外側が硬く中は柔らかくてかすかな甘みもあり口当たりも良いのですが、黄土を用いて作るということは知りませんでした。前日、伏羲河村のそれぞれの家で作っている所へ折りよく出くわして知ったのです。

‘面疙瘩’を作るのはこのあたりの風習で、正月30日にだけ作られますが、‘百病を炒り去る’という意味合いがあり、子どもが食べるとおできが出来ないし、百病を治すといわれています。小芳は気が利く子で、何粒かの‘面疙瘩’を残して私に味を見させてくれました。

乾坤湾を出発し私達はもう黄河の岸に沿っては歩かず、今度は山の深い亀裂に向って進んで行きます。しかし、まだ10里（5キロメートル）ほどしか歩いていません。前途ははるかに遠いのです。

私達が山間の谷を下る時になると、男の子達は遂に野性むき出しになり、手綱を逃れた野性馬となってもうもうと土煙を巻き上げ女の子達を残して山を駆け下って行きました。私が叫んでも止められようもなく、追いかけて追いつけるものでもありません。路はどうにか険しくなくなりましたが、しかし、山を登り、坂を下り、丘を駆け、崖を上りこれまで同様十分体力の消耗がつづく路です。今度はそれほど歩かずすぐに^{huái bō gē lǎo cūn}槐卜圪崂村に着きました。この村は閑散とした村で、僅かに10軒ほどの人家があるだけです。

村の入り口に着くと子供たちは次々と一軒の家に入って行きます。しかもその窑洞の入り口の前にカバンがいくつか置いてあり、その家（^{yáodòng}窑洞）の中からはぺちゃぺ

^{miàn gē da}
〈面疙瘩を作る〉



小麦粉を捏ね、細く延ばして小さく切り丸める



黄土層の深くから掘り取ったきれいな土を篩にかけて鍋に入れ加熱、用意の小さな小麦団子を入れて赤みがでるまでしっかり炒る。香ばしく歯ざわりもよく、かすかな甘みもあって美味しい。



山頂で一休み 皆でおやつを食べる楽しいひととき

ちゃという話し声が聞こえてきます。突然、入り口にかけられたカーテンをめくり上げて、同行の子供たちと年差のない子どもたちが何人か出てきました。よくよく見るとよく知っている顔です。訊いてみるとやはり伏羲河村の子供たちで、彼等は一足先に出発していたのでした。時刻は12時20分になっていました。

郭如林の説明で納得ゆきました。この家の人は、おじいさんもおばあさんも親切な性分で、家(窑洞)が道端にあるので伏羲河村の子供たちは学校の行きかえりの途中、皆ここで足を休め水を飲むというのが何年も前からの習慣になっているのだそうです。親戚でもなければ縁故があるわけでもありません。面白いことに同行の子供たちの中にはこの近くに親戚やお祖父さんお祖母さんが住んでいても、そこに行って休んだり水を飲んだりせず、皆と一緒にいたいのです。私は子供たちに、「外にも休んだり水を飲んだりするところがあるの」と訊いて見ましたが、「この家だけ」とのことです。勿論、途中でお腹が空き喉が渇けばどの家でも助けてもらうことは出来ますが。

二組が合わさって一隊となり全部で14人になりました。速度は更に落ちて私達はゆっくりと前進して行きます。普通なら男の子は間違いなく前方を歩き、女の子は後ろに置いてゆかれてしまうと郭如林guō rú línは言います。が、今日は私が隊伍に加わって、話をしたり写真を撮ったりするので、皆一緒に賑やかです。山間の平地を越えると土家洼村tǔ jiā wā cūnに着きました。槐卜圪崂村huái bǔ gē lǎo cūnと土家洼村はそれほど離れてはいません。せいぜい20分ほどなのですが又休み始める子どもがいます。ある子が坐ると、みんなもてんてんばらばらに道端に坐ってしまいます。

連れの郭如林は伏羲河村の人で、子供たちとよく知り合っていますので、子供たちをからかい始め、一人一人に今年のお年玉はいくらだったか問いました。50元という子もいれば、20元という子もいます。芳芳は今年14

歳で、朝起きてみたら家族が芳芳の枕の下に14元を入れて置いてくれたので、もう嬉しくたまらなかったそうです。それで素敵なペンを買ったのだそうです。

一緒に歩いている女の子たちの中に一組の姉妹がいます。ずうっと何も話さず、特にお年玉の話になった時は全く口を閉じてしまいました。2000年の春、伏羲河村で三輪車の事故があり、3人が死んで8人が怪我をしました。死んだ3人の中にこの姉妹の父母がいたのです。同時に父の愛と母の愛を失った姉妹の悲しみがどんなだったか想像にあまりです。

子供たちの休憩には理由があります。この後直ぐ土家洼深溝を越えなければいけないのです。この溝は深いばかりではなく急勾配でしかも険しいのです。ここを越える時、私は毎回体中汗びっしょりになります。こちら側の山の上から谷の向こうの山を眺めると、向こう側は更に険しくて斜面は45度以上あり、200m以上も登るのです。ここを越える必要のある大人はみんなその大変さに怖気づいてしまうのです。

この険しい道は捷路砭jié lù biǎn注*に続きます。私は真面目に写真を撮らなければいけません。私は大部隊と離れ、眺めのいいところを選び、寒風の中でカメラの三脚を立てました。ふと見ると対面の山の上の小さな影が見えます。ついさっき私の周りで元気よくとんだり跳ねたりしていた子供たちです。もうそれぞれ小さな虫になって稜線の上を動いています。子供たちは道なりに、纏まったり、ばらばらになったりしながら、山の上部の石崖の辺りまで登ると、約束どおり座りました。子供たちはそこで私を待っているのです。私は大部隊を追いかけてゆくしかなさそうです。

*捷路砭 崖に沿った道。危険だが山を廻らずに済み近道になっている。

私は郭如林の助けを借りて、早足で山の麓に下りると45度近い、所々雪の張り付いた斜面を登ってゆかなければなりません。子供たちはまだ待っているのでしょうか……私は綿のようにふにゃふにゃになった足を頼りにやっと山の頂に辿り着いた時は私も弁解の余地なし道端に座り込んでしまいました。時間は午後1:10です。

隊伍の中で慶慶の年齢が一番小さく、彼女は去年やっと郷の小学校に進級したばかりなので体力が十分ではありません。何度も真っ先に休んでしまいます。慶慶は私がこれまでずっと撮影を続けている子どもで、活発で明るい、特に嬉しい時の、あふれ出てくるような笑顔は人懐こく可愛いらしい女の子です。勉強のためにこの

子は実に十何斤(5～6キログラム)の重いかばんを背負って40里余り(20キロメートル以上)の山道を年上の子供たちと一緒に谷を下ったり山を登ったりしているのです。どんなにか大変なことでしょう。

隊伍はだんだん長くなり、歩調もゆっくりになりました。丘陵をもう一つ越え、山間の小道を抜けました。隊伍は再び休憩します。丁度午後の2時です。子供たちの気分を転換し元気づけるために、私はビデオを巻き戻して、撮影した映像の一部を見せてやりました。子ども達は元気を取り戻し、それぞれ頭を伸ばして、押し合い、押し合いしながら自分の姿を争って見ようとします。よく見ると途中で加わった一行の槐卜圪崂村huái bǔ gē láo cūnの何人かの男の子と北山村の5人の女の子達もいます。特に改改と呼ばれる女の子は、私が何年か前から追跡撮影の対象にしているのです。



更に20分近く歩くと一行は又休憩です。「千里の道のりには軽い荷はない」といわれています。子ども達は背に重いカバンを背負っているのを見れば全くよくぞ思いこそすれ何も言えはしません。私と一緒に‘捷路砭’を歩いた彩琴、転琴姉妹二人はカバンの持ち手を片方ずつ持って、大きなカバンを力を合わせて運んでいます。転琴の杖はもう捨ててしまっていました。しかし、カバンの中には自分の本もあるので運ばないわけには行きません。まして、これまでの道のりはお姉さんが背負ってくれたのですから。

子ども達が下ろしたパンパンに膨れたかばんを私が手にしてみるとビックリするほど重く、触ってみると本ばかりではないようです。子ども達が言うには、それは‘干馍片’‘面疙瘩’の類で、しかも漬物を眼一杯詰めた瓶も入っているのです。この漬物瓶は大切なもので、子ども達の一週間9回分の食事の唯一のおかずなのです！私は子ども達に「漬物を全部食べてしまったらどうするの」と訊いてみますと、「買うよ」という答えが帰って来ました。「何をかうの？」一番安くて簡易包装の‘酸辣片’は一角で一切れだそうです、おそらく街では売れないような劣悪な食品なのでしょう。子ども達はお父さんがくれた一週間2元の小銭を懐にしているのです。

私が孤児の姉妹を見ますと、二人はいつの間にか深く頭を下げています。そうです！誰が二人の面倒を見てい

るのでしょうか？聞くところでは学費も滞っているとのこと。

再び歩き始め、私は郭如林を後ろに連れて行くと姉妹に渡して欲しいと20元を彼に託しました。私は出来るだけ人に気づかれるのを避けたいのです。如林は妹はまだ小さいので事情を呑み込んでないけれどお姉さんはきっと辛い思いをしているでしょうと言いました。

一行は間もなく劉家山村にさしかかり、如林は村で用事を足すため暫く私と分かれますので、彼はお姉さんにこっそりとお金を渡し、案の定、遠くですすり泣く声が聞こえてきました。

一行は劉家山村の入り口を過ぎ、気が付くと、私の写真フィルムが間もなく終りそうで、それにも増して困ったことにビデオの電池も終わりそうになってしまっていました。一緒に土崗中心小学

校まで行くという計画はここで終りにするしかありません。しかしまだ気持ちがあるのでもう暫く子ども達と一緒に行くことにしました。あまり遠くないところに難坡湾という素晴らしい展望のポイントがあり、取り囲む山並み、谷、車の路筋が見渡せます。ここから歩いて40分ほどで学校に到達するでしょう。

難坡湾の大登りは登ることだけならどうにかできても下るのを臆するような急坂で60度はあります！しかし子ども達は入り乱れて果敢に下って行き、しばし土ぼこりが辺りに舞い上がったかと思うと、瞬時に子ども達の大部分は山裾に着いてしまったようでした。私は“気を付けてねー”と大きな声で叫びながらも、シャッターを押し続け、彼等が軽々と飛ぶように山を下る姿を写しました。と、私の眼の端に人影があって振り返ってみると孤児の姉妹ともう一人の女の子が私と話をしたい様子です。お礼か何か言いたかったのでしょうか。私はこの類の話は聞きたくはないし、涙は見たくないし、どっちみち私がしたことはほんの些細なことなのです。私は何も気付かなかったように大きな声で追いやって、一行に遅れないよう急いで行くよう促しました。彼女達も山の下へと駆け下って行きましたが、お姉さんの方はまだ時々振り返っては手招きします。見ると真っ赤な林檎を手に、手を振っているのです。

「史記 中国古代の人びと」

貝塚茂樹著 中公新書



私の本棚には「史記」の関連書が多い。学生時代に漢文のゼミに入っていて、そのときに買いあさった。結局、遊びほうけた4年間にそれらが読まれることはなく、今になって「中国を読む」を書く

手をつけなかった財宝や美女を荒らす。10年前に授業で読んだときには、項羽の行動を下品に感じ、「やっぱり天下を取れる器にない男なんだ」と思った。けれど、項羽の立場だったら、調子に乗ってやりすぎてしまうことは、ある意味自然なことだ。逆に、劉邦が側近の意見を聞き入れ「おあずけ」をしたのは、彼が宮殿にある財宝・美女の類よりも大きな天下を取ることをイメージできていたからで、逆にそこに彼の才能を感じる。

ために読んでいるというお粗末な状態になってしまった。けれど、授業で飽きるほどやった「史記」は、関連書を読むたびに新鮮な驚きや発見を与えてくれるから不思議だ。それは、関連書の筆者の視点はもちろん、こちら側が環境の変化やら、年齢を重ねたりで変わってきていることも、影響を与えているはずだ。

「史記」そのものの話になってしまったが、しみじみそんなことを考えるのも、本書の筆者が深いところまで「史記」を読み解いているから。大学で教鞭を取っている筆者ならではの細やかさで、司馬遷が、なぜ、このくだりを書いたのか、というところまで、踏み込んで解説してくれるので、読者も「史記」を立体的に捉えたくってくる。

「史記」の読み方が学生時代と一番異なるのは、単純に「悪人」の気持ちが分かるようになった、ということ。例えば、必ず取り上げられる項羽と劉邦。項羽は、劉邦のあとに咸陽に入り、劉邦がまったく

例えば「悪人」に話を戻すけれど、司馬遷は、どんな悪人にも理解を示す姿勢を見せている。それは、彼が良心に従って友人をかばったことで腐刑に会い、おそらく心の底から世の中を憎んだ経験があるからだ。経験を積みれば積むほど、「悪人」になるシチュエーションも増えてくる。映画「BABEL」でもあったこんな意味の台詞、「私は悪い人間ではない。ただ愚かなことをしただけ。」 (真中智子)



【トピックス】

松本杏花さんの新俳句集「余情残心」と漢俳について

‘わりい’掲載中の松本杏花さんの新しい俳句集「余情残心」が「拈花微笑」に引き続き、中国で発刊されました。

‘漢俳’という言葉は耳新しく私達には響きますが、1980年代、日本の俳句に触発されて新しく興った中国詩の形式で、‘俳句’に習って、「五、七、五」の語句の中に、自分の瞬時の情感を織り込む形の短い形式の漢詩と言えます。中国では目下、‘漢俳’を試みる人が増え、その証として、漢俳専門の季刊雑誌が出版されたり、2005年3月には中国漢俳学会の結成を見るまでになっています。

中国語は単音節の言語なので、「五、七、五」と語を並べ音読すると17音節となるところが俳句と同じになります。また、‘漢俳’は短い漢詩ながら、語尾は韻を含んでおり興味深いものがあります。



中国語を勉強の皆様は、字面を目で追うだけではなく、是非、中国語で読んで言葉の音を楽しんで漢俳の魅力を味わって頂ければと思います。

‘わりい’では、6月号より、「拈花微笑」に引き続き新俳句集「余情残心」より、松本杏花さんの俳句と、翻訳された漢俳を掲載(6月号、12P)して行きます。しかし、掲載句数に限りがありますし、とても美しい装丁の句集ですので、「余情残心」をお手元に置いて楽しんで頂くのはどうでしょうか。日本では発売されておりませんが、松本杏花さんのお手元にある分を1500円でお分け頂けるとのことです。(田井)

お申込み：松本杏花 ☎048-885-2914
336-0931 さいたま市緑区原山2-40-18

かつて中島みゆきのレコードを要を通して聴き、“別れ歌”や“ひとり上手”のせつなさに涙をハラハラと流しじっくりと彼女の世界に浸ったものだ。何か翌日は心がすっきりと晴れ、元気が出てきた。涙がストレスを吹き飛ばすのだろうか……。今は、韓国ドラマの底なし沼にはまり込んでいる。泣き腫らした臉はまるで縄文の女王、遮光器土偶だ。

「韓流」という言葉は中国語圏から始まった。中国、香港、台湾、シンガポール等、東アジアの国々では日本より早くブームになっていた。日本では『冬ソナ』が火を付け、レンタルビデオショップの売り上げは急上昇し、ハングル講座に韓国旅行者は、今も右上がりと聞く。NHKのみならず民放各社も放映権が高値になったと聞くものの、テレビ欄には韓国ドラマ・映画そして韓国の俳優の名前を見ない日はない。

90年代には日本の大衆文化が東南アジアを席卷していたというが2000年代は、韓国の大衆文化がその国々で開花している。日本では『冬ソナ』はすっかり卒業し、ペ・ヨンジュン以後、若手や中堅俳優たちのせつなく、悲しく、狂おしい波乱万丈ドラマに歴史上の人物の大河ドラマ、そして『私の名前はキム・サムスン』に代表される頑張る女性のラブコメ等々、多様化の時代に入っている。しかし、韓国への偏見・蔑視はかなり少なくなったものの、韓国ドラマへの見方は無関心か、さらには嫌韓流も根強い。

1994年SBS放送『砂時計』は、1980年民主化の礎となった光州事件を作品の主要なテーマとして扱っている。70年代から90年代の韓国の現代史を背景に2人の青年と1人の女性の運命を描き視聴率が60%を越えたという韓国ドラマの金字塔なのだ。政界の腐敗や汚職、学生運動と思想統制、激しい弾圧の中での恋。検察官になり正義と信念を貫く青年と裏社会に生きる青年、幼馴染の二人は偶然にも全羅南道光州市で対峙することになる。

1980年5月18日～27日、光州市民たちは戒厳令を撤廃、全斗煥の退陣、金大中の釈放を求めて立ち上がるが、軍によるデモ隊への無差別発砲により流血の惨事になる。市民も武器を取り、一時は戒厳軍を追い出すが軍の武力によって鎮圧されてしまう。

心優しき正義の人は戒厳軍の一人として、裏社会の彼は、軍による暴力と無差別発砲を目のあたりにし市民とともに立ち上がる一人として。

時代が流れ、検察官と被疑者として二人は拘置所でまみえる。殺人の罪人に自分は求刑する資格はない、と光州での自分を告白する検察官の苦悩に、「いや、お前こそが俺の裁判に関われ」と応える彼……。最終回では検察官と勝って恋人であった女性が山の上から彼の遺骨（灰）を静かに撒くシーン。「本当によかったの？彼を死なせて……。」「と問う彼女、「わからない……。時がその答えを教えてください。」「と語る彼。この24話のドラマは終わる。

光州事件は“光州民主化闘争”として1988年の国会で参加者や被害者の名誉回復がなされ、更に1995年の特別法により当時の大統領や軍将校が裁かれることにより完全に名誉回復を遂げた。

2005年の映画『トンマッコルへようこそ』は、朝鮮戦争の最中、俗世と隔絶された山中の桃源郷・トンマッコル村に迷い込んだ、南の兵隊と北の兵隊、そしてアメリカ兵の3者がいがみ合いながら、いつの間にかこの村を無差別砲弾から生命をかけて守りきる、という物語だ。それぞれの軍には理想とかけ離れた現実が暴かれる。この映画で、そして『砂時計』のようなドラマで真実を訴える韓国ドラマの人たちに思わず喝采をしてしまう。

“出生の秘密・不治の病・事故”という韓国ドラマ3原則など作品の数からは少ない。逆境の中でも臆せず胸を張って生き抜くチャングムやクッキ、封建時代の身分制度に苦しみながらたゆまぬ努力で医師になり、朝鮮の山野に自生する薬草を分類、明の漢方書を編纂した心医『ホ・ジュン』の物語、『商道-サンド』はイム・サンオクの正しい商売人としての道を説く。奴隷の身分でありながらあらゆる困難を克服、統一新羅時代に中国・日本との海路を切り開き、『海神-ヘシン』と呼ばれたチャン・ボゴ。

根底に流れる儒教の深い思想・哲学。思い込みの激しさやしぶとい愛の押し付けもあるものの、珠玉の名セリフに涙しながら今日もまた眠れぬ夜を過ごすのだ

われわれの身近で日常使われている物事や言葉でその根拠や背景を知らない場合が意外と多いようにも思われます。「もの知りノート」と題して細かい項目を少しずつ取り上げてみたいと思います。ただし、一般常識的な内容なので余り斬新さを期待されても無理だと思しますのでご承知置き下さい。

卍の記号は地図の上でよくお寺の表示記号として使われています。なぜだろうという疑問がある席上話題になりました。以下調べた範囲で述べてみましょう。

◎卍の記号の象徴するもの

卍は仏教とのつながりが深く釈迦の胸毛の渦巻きがその形の由来とされています。ヒンドゥー教になるとこれはヴィシュヌ神の胸のつむじということになります。

また宗教とは関係なくBC3000年頃古代文明の栄えた各地でこの紋様の出土例があるようで、太陽が光を放つ様子を図形化したのが起源であるとも言われています。

洋の東西を問わず「まんじ」は幸運のシンボルとされてきました。唐時代(正確には「武周」)時の女帝・武則天の指示により「卍」を万と読むことが定められ、漢字の仲間入りをしたのです。しかし熟語としては「卍巴(まんじともえ)」や卑近な例では「卍固め」など数は多くありません。



東京・浅草寺 (Wikipedia 卍の項目挿絵より)

◎左卍と右卍

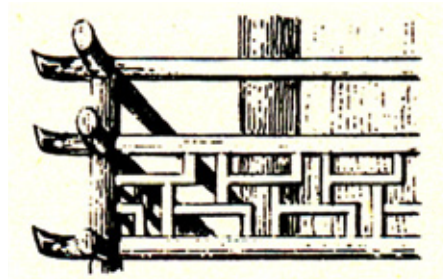
卍には右回りと左回りがあります。日本では一般的に左卍が使われています。

仏教の発祥地インドでは太陽の運行や聖地を右回りに拝するなどの理由により右回りが正統とされていたとも聞きます。ご存じドイツ・ナチスのシンボルマークとなったハーケンクロイツは右卍を45°

【'わんりい'の原稿を募集しています】

原則として、2月と8月を除く毎月発行の会報'わんりい'は、会員の皆さんから寄せられた原稿でまとめられています。体験された楽しい話、アジア各地で見聞した面白い話などなど気楽にお寄せいただければと願っています。皆さんの投稿をお待ちしています。

*紙面が16Pと限られていますので、掲載まで暫くお待ち頂くことがあります。また、紙面の都合で作者のご了解の上、余儀なく手を入れたり、カットさせて頂いたりすることもあります。



卍崩組子(「広辞苑」挿絵より)

卍形意匠をを組子にしたもので法隆寺の金堂・中門・五重塔などの上層の高欄に見られる(広辞苑)。インターネット接続可能な方は、「法隆寺卍崩し」をキーワードで写真が見られます。

お寺の鐘や屋根、また聖堂の敷石、染め物や陶磁器また家紋や市の市章として使われているところもあります。

◎卍の書き順

いろいろありますがまず十の字を書いて次に上の横、下の横、上の縦、下の縦と書くのがわかりやすいでしょう。部首は十、画数は六になります。

参考文献：Wikipedia(卍の項目)他

中国語で歌おう! 6月7月指導曲

xīng
星

作曲：谷村新司

作詞者：不詳

zhènzhen kuángfēng chuī guò yīpiàn huāngyě
阵阵狂风吹过一片荒野

biàndì shì ní níng fāngxiāng pàn bù míng
遍地是泥泞方向判不明

zhǐshì mǎntiān xīngxīng jìjìng zhào zhe wǒ
只是满天星星寂静照着我

gěi wǒ pòsuì de xīn dài lái guāngmíng
给我破碎的心带来光明

a xīngguāng càn làn
啊星光灿烂

bàn wǒ dú xíng gěi wǒ guāngmíng
伴我独行、给我光明

a xīngguāng yǐn lù
啊星光引路

nǎ pà dào lù qí qū bù píng
哪怕道路崎岖不平

dài zhe lǐ xiǎng wǒ yào zhuī qiú wǒ xīn zhōng de mèng
带着理想、我要追求我心中的梦

dài zhe lǐ xiǎng gēn suí zhe càn làn de xīng
带着理想、跟随着灿烂的星

稲城に着いたら、どこに宿を取るかは決めていた。成都に滞在していた時、すでにその宿の名刺を手に入れていた私は、バスが稲城に辿り着く前にはそれを取り出して、しっかり手に握りしめていた。

私が成都で滞在していたのは、バックパッカーと呼ばれる大きなザックひとつで自由に旅するようなスタイルの旅行者に向けた、日本でいうユースホステルのような感じの場所だった。

帰国する間に突然居残りを決めたため事前の準備も無く、右も左も解からない成都でガイドブックさえ持っていない私を見かねたのか、それまで四姑娘山で案内役としてお世話になっていた、『わんりい』でも(四姑娘山の自然紹介で)おなじみの大川健三さんが、そこなら安心して滞在できるからと紹介して下さったのだ。

中国では青年旅舎などと呼ばれているそのような宿は宿泊料金も安く、私のような一人旅の旅行者にとっては訳のわからない一般の宿に泊まるよりずっと安全だ。旅行者が大勢集る場所なので旅の情報なども提供してもらえたと、中でもドミトリーと呼ばれる大部屋は与えられたベットの上だけが個人のスペースだが、格安料金で泊まる事ができる上に、同じようなスタイルで旅している同室の旅行者達とひととき互いの旅の話に花を咲かせることもできて、なかなか楽しかった。

その成都の宿ではフロント脇に中国各地の青年旅舎の名刺が並べて置いてあり、宿泊者が必要に応じて自由に取っていけるようになっていた。そこで稲城の『垂丁青年旅舎』の名刺を見つけた時は、思わず飛び上がってしまった。

何しろ稲城といえば、成都からバスで三日がかりの(実際には二日で着いてしまったが)四川省の山奥の奥の、山賊のような男たちがウロウロしているような田舎街だ。(と思っていた)そんな場所で土地勘もなく、私が一人で泊まれるような宿が見つけれられるのだろうか……。しかも稲城から車で三時間程の垂丁まで公共のバスは無く、自分で車をチャーターしなければならないという。一人旅の私が車をチャーターするには、一緒にシェアできる仲間を探さなければならないだろう。果たしてそんな仲間が上手く見つかるだろうか……。四姑娘山メンバーと別れ一人きりになったばかりで、私も人並みの不安は感じていたのだ。

いつになく心細い気持ちになっていたのが、その名刺



を手にしたとたんいつもの気楽な私に立ち返り、これで稲城でも安心して泊まれる〜!旅人の集る青年旅舎なら垂丁までの車をシェアする仲間もたやすく見つかるに違いない!と、嬉しさのあまり意味もなく三枚も名刺を取ると大事にパスポートに挟んで持っていたのだ。

しかし喜びの反面、戸惑いも感じて私の気持ちは複雑だった。三年前に私が始めて訪れた頃、あの辺りの土地は外国人に開放されたばかりで、知っている人はまだ少ないとの事だった。当事買い求めた四川省の地図でも、垂丁はかろうじて名前が載っているかいないか程度の場所だったが、それが今や、稲城には垂丁目当ての旅客にむけた青年旅舎などもできてしまう程にポピュラーな観光地になっているのだろうか……?

心の中で想いつづけていた垂丁は『知る人ぞ知る特別な場所』のように思っていた私は、何だか少し拍子抜けする感も否めないまま、それでも山賊の街でとりあえず身の安全が保障された事に対して安堵の吐息をついたのだ。

内心の興奮を隠してぼんやりと窓の外の風景を眺めているうちに、バスはとうとう稲城に着いた。ついに、ついにここまで来たんだ〜。感慨にふけろうとしたその時、まだ完全に停車していないバスの側面に突然ワラワラと人が群がってきた。

「垂丁! 垂丁! 垂丁に行くか!? 車はあるのか!?!」

「垂丁に行くよ! 垂丁に行くよ!」

「垂丁! 垂丁! 垂丁!」

バスから降りると、男たちが寄ってきて「垂丁に行くのか?」と尋ねてくる。

「うん、行くよ」

「何人だ」

「一人だけど」

「え、一人だけ? (少し落胆)、いつ行くんだ?」

「まだ決めてない」

「垂丁に行くなら電話してくれ」

男は私に名刺を手渡すと素早く別の乗客の方に向かっていった。

あっけにとられている間に数人の男たちが寄って来ては同じ会話を繰り返し、あっという間に私の手には数枚の名刺が握らされている。どこかのインスタント名刺屋で作られたものらしく、デザインはどれも同じで車の絵に名前と携帯電話の番号が印刷されているだけのものだ。どれが誰のかわからない。

何じゃ、こりゃ〜。車のチャーターなんてどうすればいいのかと思っていたが、向こうから営業にやってくるのか。それにしてもこの様子じゃ、垂丁はすっかり観光地になっているみたいじゃないか。

憧れの稲城に着いたとたん、思いがけない奇襲攻撃にあっけこ面食らっていると、背の低いプックリとした少女が話しかけてきた。

「今日の宿は決まっていますか? 良い部屋があるんだけど」

パッチリした目がとても可愛い。まだ幼さの残る彼女の姿に警戒を解きバスの中から握っていた、垂丁青年旅舎の名刺を差し出して見せると

「ここに行きたいんだけど、どこにあるのかな?」

と尋ねてみた。

「私の紹介する宿の方が近くていいよ。そっちに来ませんか?」

「ううん、私はここに泊まりたいの。どこにあるか教えてください?」

私が重ねて言うと、彼女はアッサリと「じゃあ私が案内してあげる」と先に立って歩き出した。

「あなたは一人で来たの?」

並んで歩きながら彼女が尋ねた。

「うん」

「怖くないの?」

「別に怖くないよ。みんな優しいから」

「あなた、荷物多いねえ。私、手伝ってあげるよ。」

私は大きなザックを背に、小さいザックを胸側に抱くように背負って歩いていたが、彼女が小さい方のザックを取って背負ってくれた。胸の中がキュンとなる。彼女はどこかの宿の客引きだろう。しかし私は彼女の勤めには応じず他の宿に行くというのに、彼女は道案内をしてくれて、荷物

を持つまで手伝ってくれるのだ。

「あなた垂丁に行くの?」

「そうだよ」

「じゃあ、垂丁から戻ったら、私のいるホテルに泊まってね。」

「うん。きっとそうするよ!でも、どこであなたに会えるの?」

「私は毎日、夕方バスターミナルの所にいるよ。」

「あなたの名前は?」

「シャムウ」

街はずれまであるくと垂丁青年旅舎の看板が通りに出ているのが見えてきた。

「あなたの探してる宿はあそこだよ。垂丁から帰ったら私を探してね!」

宿の手前で、彼女は手を振ると今きた道を戻っていった。

シャムウ、シャムウ、可愛い名前だ。シャム猫みたい。彼女の名前を口の中で転がしながら垂丁青年旅舎の門に入る。旅舎にしては人の気配がなく、なんだかガラーンとしていた。一般的な青年旅舎のイメージから、大勢の旅人がお茶などの飲めるテラスでおもいおもいにくつろいでいる風景を想像していた私は、あまりの人気のなさに戸惑いながら事務所を訪ね、泊まりたい旨を告げた。面倒くさそうに出てきたチベット服姿の女性に個室とドミトリーどちらが良いかと聞かれ、ドミトリーを選んだ私が連れて行かれた部屋は、二段ベッドが部屋の両端に三個ずつ並んで計12人が泊まれるようになっているのだが他には誰もいなかった。

これなら個室に泊まるのと同じじゃないか。誰にも遠慮せずにベッドを三つ使って荷物を広げる。それにしても今日この旅社にとまっているのは私一人だけなのかと思える静けさだ。ここで垂丁の情報を聞いたり、車をシェアする仲間を見つけようとしたのは完全にアテが外れてしまった。混みすぎている宿も嫌だが、これじゃなんだか寂しすぎる。さっき別れたシャムウが恋しく思われた。こんな事なら彼女の宿に泊まってあげれば良かったな……。

部屋を出ておもてにある共同の洗面所に向かうと、3、4人、テラスのベンチで座って喋っている人達がいるのが遠くに見えた。他にも泊まっている人がいたらしい。中国人旅行者のようだった。

洗面所の鏡に映った私の顔はひどい事になっていた。髪はボサボサだし、おんぼろバスでの長旅疲れとホコリで目じりにはクッキリ皺が刻まれてる。嫌になっちゃう。

顔を洗って外に出ると夕暮れが近づいていた。考えて

みれば、朝康定のバスターミナル前で水餃子を食べて以来、ロクに食事も取っていない。せっかく辿り着いた稲城の街を歩いても見たかったので、出かけようとしていると、先ほどテラスに座っている人達と話していた男が近づいてきた。

ダブっとしたズボンに白いジャケット。つばのついた丸い帽子を目深にかぶったいでたちは、昭和のチンピラみたいだ。

「垂丁にいくの？ 車はあるのか？」

さっきから何度と無く繰り返された会話だ。宿で一息ついたおかげで交渉に入る心のゆとりもできていた。

「いくらで行くの？」

「200元」

「フン！ 冗談じゃないよ！」

垂丁までの相場は50元くらいだと聞いている。私が会話を打ち切って立ち去ろうとすると、彼はあわてて追いかけてきた。

「待ってよ！ 200元は車一台の値段なんだ。人数が増えたら一人分の料金は安くなる。俺が他の客も探すからさ！」

「ふーん、じゃ私一人で50元ね。で、帰りはどうすればいいの？」

「帰る日を予約すれば、迎えに行くよ」

「じゃあ往復でいくら？」

「90元……？」彼が私の目をうかがうように答えた。

「もう一声！」

「じゃあ、80元……」

「往復で70元ね。だったら、あなたの車に乗るわ」

駄目もとの強気で値切ってみる私。

「解かったよ。70元でいいよ」

え!? いいの!? 彼はあまり商売は上手じゃないらしい。なかなかお客がみつからないのだろうか。

「でも先にお金を払って、あなたが来なかったら困るよねえ。……料金を払うのはいつ？」

彼を軽く睨みながら訊ねる私。

「稲城に戻ってきた時でいいよ」 え!? ホント!?

「明日行ける？」

「いいよ」

「今夜一晩で、他のお客さんを探せるの？」

「なんとかするよ」

「本当に!? 絶対だよ〜！」

何度も念を押すと、彼と握手して交渉が成立した。

(次号に続く)

松本杏花さんの俳句 niān huā wēixiào 《拈花微笑》より

揚琴の羅の女艶めける

màn miào yángqín jiā
曼妙扬琴佳
rú yù shūnǚ guǒ luó shā
如玉淑女裹罗纱
chuòyuē fēngzī yǎ
绰约风姿雅

季语：罗纱，夏

赏析：我国唐朝大诗人白居易在《琵琶行》中吟道：“转轴拨弦三两声”

而此首俳句连拨弦三两声也省略，直接被扬琴演奏者的服装和身姿所折服了。未闻其曲，先观其容，与其说即将开始的演奏是声情并茂，倒不如说未拨琴弦先动情了。一如我国戏剧，有人善看戏，有人爱听戏，真是仁者见山，智者见水。

梅雨の雷蘇州余韻も打たれけり

méiyǔ xiǎng léi qǐ
梅雨响雷起
sūzhōu yúyùn yì zāo jī
苏州余韵亦遭击
yáoyáo wàng wúxī
遥遥望无锡

赏析：“周游江南”，作者在苏州写下诸多，可见其对苏州的印象是多么美好。当乘车离苏赴

叁天的银杏树繁枝吐芽、象征着古木逢春的无锡的途中，遇到了雷雨。作者当时还沉浸在苏州园林的袅袅余韵，可这一声霹雷，却使绵绵情思戛然而止。

殊不知，这雷声可是苏州欢送友好客人的喧天锣鼓，是无锡迎接邻邦嘉宾的隆隆礼炮——

* 6月号より新しい句集「余情残心」からの抜粋になりました。

コロンボの街路樹は簡単に倒れる！

あまり知られていませんが、コロンボの街路樹は簡単に倒れます。

コロンボでは5月～9月のモンスーン期だけでなく、1年中いつでも激しい風を伴った雷雨があります。この様な雷雨の後で、コロンボ市内各所では冠水による交通渋滞がしばしば起きます。海に面したゴルフコースロードはさすがに冠水で通行止めになることはありませんが、ゴルフコースロードからたった1本だけ内陸側にあるデュプリケーションロードでも膝下まで雨水が溢れてしまい、車や人の往来が難しくなる事がしばしばあるぐらいですから、他の道路では冠水によって道路が通行止めになることが日常茶飯事の様にあります。冠水による交通止めならば、暫くして自然に水が引けば通れるようになりますが、厄介なのは街路樹の倒壊による交通止めです。

コロンボ市内を歩いていると、幹が太くて背が高く、樹齡は何年だろうと思うような立派な街路樹の並木に出会います。街路樹の並木はワードプレイス、ホートンプレイス、インディペンデントホール周辺等市内いたるところにあります。街路樹の並木だけでなく住宅地でも巨木をよく見る事ができます。

ペター地区やフォート地区の様な商業中心地区を除けば、コロンボ市内では幹線道路から一步横道に入れば住宅地になっています。特に、コロンボセブン(7)と呼ばれる地区には植民地時代から受け継がれていると思われる広大なコロニアル様式の屋敷が多くあり、スリランカ人のお金持ちや各国の外交官・外国企業の駐在員などが多く住んでいます。これら屋敷の敷地の庭には花が咲き乱れているだけでなく、塀の外側には道路に沿って大きな樹もたくさん植えられていて街路樹の様になっています。歩き回る事が大好きな私にとって暑い盛りに日陰を提供してくれる有難い存在です。

余談ですが、殆どの在留外国人はゴルフ場と冷房の効いたホテルやオフィスの中以外の場所で歩く事はありません。スリランカに来る観光客はお年寄りが多い所為もあるのか、観光客が歩き回っている姿をコロンボ市内では見かける事もありません。たいがいの観光客が冷房の効いた観光バスで移

動しています。地元の人でも中高生ぐらいまでは歩いている姿をみかけますが、大人になると殆ど歩きません。ほんの少しの距離でも歩く事を嫌がり三輪タクシーに飛び乗ってしまいます。

話をもとに戻します。この様な立派な街路樹が激しい雷雨に伴う強風で簡単に倒れます。これらの倒木が道路を横断して交通止めの原因になり、撤去作業の遅れがますます渋滞に拍車をかけます。

何故こうも簡単に倒れるのかと思い、倒木を観察してみた事があります。どうやら、全体の大きさに比べると根っこが小さいようです。そして根は深く伸びずに、横方向へばかり伸びているように私には感じられました。全くの私見ですが、コロンボの土壌が堅いのか養分が少ないかの理由で縦方向に進まずに横方向に伸びたのか、もともと根が横にしか伸びない種類の樹なのかもしれません。そしてコロンボの温暖な気候によって地上部分はどんどん成長するのに比べて、根は上部を支えられるだけ頑丈に成長するスピードが追いつかない事が、簡単に倒れてしまう原因ではないでしょうか。そして、地上部分と根っこ部分のバランスがとれるギリギリまで一気に成長してしまい、バランスが崩れ始めた時に強風がきっかけになって倒れてしまうのではないのでしょうか。

人間でも上半身は鍛えてあっても、下半身が弱いと全体としては脆いのも同じですね。知識にしたって根本的な基礎知識が無ければ、頭でっかちになりがちです。根っ子の部分が弱いて、スリランカではなくて日本の現状みたいに思えますね……。

コロンボで雷雨のあとに倒木を見つけたら根っこのあたりをよく観察して下さい。そして僕と違った倒木の理由を推理して下さい。何処かで発表するわけじゃなし、どんなに奇抜な推理だっていいじゃありませんか、推理する過程が楽しいのですから。スリランカだけでなく、世界中どこでも街中をウロウロしていると色々面白い事を発見する事ができます。何でだろうと考えるとちょっと面白い時間がすごせますよ。暇な時間ができたら是非とも散歩を楽しんで下さい。

2008年に米大統領選挙を控えたアメリカでは、早くもその候補者達の名前や動向に注目が集まっている。中でも初の黒人として大統領選に出馬を表明したバラク・フセイン・オバマ氏 (Baraka Hussein Obama) に対しては、全米だけでなく、世界のメディアが注目している。中でもケニアの人々にとって彼の出馬は、特別な憧れを持ってその動向が期待されている。

現在、移民の国アメリカには、19世紀南北戦争以前にアフリカから奴隷として連れてこられたアフリカ人の子孫が全人口の12%を占め、彼らは「アフロ・アメリカン」や「アフリカ系アメリカ人」と呼ばれている。彼らはアフリカから無理やり連れてこられたにも関わらず、アメリカでは彼らに対する差別や偏見が存在している。

オバマ氏は、父親がケニア人、母親がアメリカ人 (白人) であり、ハワイのホノルルで生まれ、幼少時代をイスラム圏のインドネシアで育ち、アメリカで教育を受けている。父親は西ケニアのルオー族出身で、キリスト教徒が多い同地域でありながらイスラム教に改宗している。オバマ氏のミドルネームが「フセイン」なのは、父親から来ているのだが彼自身はキリスト教徒である。ファーストネームのバラクは、スワヒリ語のバラカ (Baraka) を意識的に英語らしく発音している。“バラカ”とは、“神様からの恵み”を意味する。

彼の政治信念・理念は、アフリカ系アメリカ人としてマイノリティーとして生きてきた人生からくることは彼のスピーチや言葉から簡単に想像できる。しかし彼自身は、コロンビアやハーバードのロースクールを卒業し、弁護士として働いた後、イリノイ州の上院委員となってから、本格的に政治活動を始めている。つまり彼は、エリートである。

しかし、ケニア人の父親は、西ケニアの小さな村で牛を追う生活をしてきた。成績が優秀で、ハーバード大学経済学部へ奨学金を貰って留学し、ウガンダの大学で教鞭を執った後、母国ケニアに戻り、公務員として監査の仕事に就いていた。両親は離婚し、父親は交通事故死したため、オバマ自身父親のことは良く知らないと言っている。

しかし、そんな父親の母国ケニアを今までに3回訪問している。中でも2006年8月にケニアを含むアフリカ5カ国 (南ア・ジブチ・チャド・スーダン) 訪問はすでに大統領候補として立候補していたこともあり世界中から注目されていた。彼は、父親のお墓参り、祖母に会うために西ケニアを訪問したり、キバキ大統領を始めケニアの政治家やいろいろな人々に会い、また首都ナイロビにあるキベラスラムを歩いてみて回ったりしていた。実際アフリカを巡ってみてのアフリカに対するメッセージはなかなか厳しいものであった。

「アフリカは、自助努力でしか発展しない」

「アフリカは、その豊富な資源をもって国を発展させるべく基本的な法の整備と会計の透明性が必須である」

また、アメリカでも「アメリカには、白人も、黒人も、ラテン系も、アジア系も居ない。居るのは、アメリカ人という国を共に造る人々が居るだけだ」と言ったように、ケニアでも「ケニアには民族が居るが、ケニア人という国を共に造る人々が居るだけだ」と演説し、民族主義や汚職、賄賂の問題を批判した。

オバマ氏のように、外国を知るアフリカ人の数は、奴隷貿易に始まり、教育や仕事で海外に出る人々が増えることにより多くなってきている。「アフリカを客観的に見る目」は確実に増えてきている。植民地からの独立後のアフリカの歴史は、外国人がアフリカの問題を指摘したり、援助したりした歴史であったし、現在もそれは続いている。

オバマ氏が言う、「新しい世代のアフリカ人」とは、アフリカの問題を、アフリカ人自身が見つめ、解決を図っていく世代だ。しかし、現実には、外国に出ているアフリカ人はアフリカに戻らないことが多いのも事実だ。特に、奨学金などでエリート教育を受けた医者、弁護士、教師はより高い給料を求めて外国で働き続ける。「頭脳流失」の問題である。また有名なアスリートは、外国の企業にスカウトされて、日本にも沢山のアフリカ選手がいる。オバマ氏は、自身もアメリカでマイノリティーや黒人差別の問題に立ち向かっている人だ。そんな彼のアフリカでの言動が、アフリカ人を盛り上げたのは確かだ。

麻生市民館利用団体のお祭・あさおサークル祭が今年も賑やかに開催されました。各団体の催しも年を追って充実したものになり、あさおサークル祭に足を運ぶ人も増えているように見受けられます。

‘わんりい’は19日(土)は「天空の花園・四姑娘山の花々」(スライド上映)とTOKYO万馬馬頭琴アンサンブル演奏会、20日(日)「幸せなら手を叩こう!」を中国語で歌おう会・公開講座で参加しました。

「天空の花園・四姑娘山の花々」のスライド上映会では、朝のうちの激しい雨で出足が挫かれるのではないかと心配しましたが、予想外の25名の参加があり満席状態でした。会員の河本義宣氏が、四姑娘山の花なら右に出るものがないサイトを作りたいと丁寧に分類された花々が次々大型スクリーンに映し出され、3000m以上の高山に咲く幻の花と称される青いケシの群落が映し出されると、‘ふう’というため息で一瞬会場の空気が揺らぎました。

同じ科に属しながら実にさまざまな色や姿の花々があり四姑娘山の高山植物の多様性が印象付けられるとともに、日本なら既に森林限界を超える4000mの高地で多種多様な高山植物の咲き乱れる様子は神々の花園といっても過言ではないかと思えます。

ツアーでは予定されない四姑娘山自然保護区の核心部に惜しげなく私達を案内くださった、プロのカメラマンであり四姑娘山自然保護区管理局特別顧問を務める大川健三氏に深い謝意を表したいと改めて思いました。

午後の大会議室での「TOKYO万馬馬頭琴アンサンブル」では、今年は馬頭琴の演奏者は5名で例年より演奏者数が少なかったのですが、ピアノの伴奏が入り、内モンゴルフフホト市で「日本人だけでも此処までできるのか!」と好評を博した腕前で熱を込めて演奏くださいました。

尚、今年は笑ってしまいそうなくらい大きな胴の馬頭琴や中音用馬頭琴も用意され、四重奏でその音を披露くださったり、チ・ブルグッド夫人の西郷美炎子さん作曲の「最後の鷹」をチ・ブルグッド氏と西郷美穂子さんが仲良く演奏、暖かい喝采を浴びました。

サークル祭りでの馬頭琴の演奏はかなりの回数になりますが、毎回アットホームな雰囲気でのいろいろな試みがなされる機会として、馬頭琴アンサンブルの皆さんにも喜んでいただけています。ただ、毎年の恒例になっている為か、20日の「中国語で歌おう!会」講座とも、会員の皆さんの参加がもう少し欲しいところでした。



馬頭琴四重奏でパッヘルベル作曲のカノンを弾くメンバー 現在、2台しかないという、ベースに当たる特注の巨大馬頭琴(右端)の音が面白い。右から2番目はヴィオラに当たる中音馬頭琴。



西郷美炎子さん作曲の「最後の鷹」を仲良く二重奏をするチ・ブルグッド氏と西郷美炎子さん

モンゴル民族文化基金(MUSS)
第五回チャリティコンサート
 2007年6月22日(金)
 開演：19：00 会場：18：30
 於：文京シビックセンター・ホール
 地図はこちら <http://www.b-civichall.com/>
 東京メトロ丸の内線/東京メトロ南北線：後楽園駅
 都営地下鉄三田線/大江戸線：春日駅 JR総武線：水道橋駅

在日中国籍モンゴル人が主体となり、故郷のモンゴル語教育の助成及び伝統文化の振興を目的に、収益金は奨学金として故郷の子どもたちに送る
 出演：チ・ブルグッド & HEMELL モンゴル舞踊
 モンゴル・ホームイ 和太鼓
 主催：モンゴル民族文化基金

- ◆参加費：3000円
- ◆申込み&問合せ：モンゴル民族文化基金
☎090-3506-6803 or 090-6127-8184

‘わんりい’でもチケットを預かっています。☎又はE-mailで‘わんりい’事務局までお申込み下さい。



6月は 'わんりい' 料理講習会へどうぞ

インドネシアのカレーは真夏の味!

暑い夏はミネラル分豊富なココナッツミルクたっぷりのインドネシア料理で乗り切ろう!!

今年も昨年に引き続いて、和光大学バンバンルディアント助教授夫人のロサリタさんにインドネシア料理のご指導をしていただきます。インドネシア料理は、栄養価高いココナッツミルクをふんだんに使い、夏ばて予防にぴったりです。

手に入りやすくなったココナッツミルクの使い方をいろいろマスターして、暑〜い夏を乗り切りましょう!! 講座の内容は、これだけでもホームパーティ可能なメニューになっています。

ココナッツミルクについて:

ココナツの果汁の栄養成分は、カリウム、マグネシウム、鉄分などのミネラルが豊富です。カリウムには体内の余分な塩分を排出してむくみを抑える働きが、鉄分は貧血予防、そしてマグネシウムは、筋肉疲労をやわらげる効果があり、また、ココナツ果汁は食物繊維も豊富なので、便秘症の人の味方とも言われています。鉄分とならんで貧血予防に効く葉酸なども含まれているそうです。

日時: 6月16日(土) 11:00 ~ 14:00

場所: 麻生市民館 参加費: 2,300円 (一般: 2,500円)

講師: ROSALITA(ロサリタ)

(和光大学経済学部助教授・バンバンルディアント先生夫人)

定員: 30名 6月13日まで申し込み受付。但し定員になり次第締め切ります。

【予定メニュー】

- 1) カリ・アヤム (インドネシア風チキンカレー)
ココナッツミルク味のインドネシアのカレーはインドカレーともタイカレーとも一味違います。
- 2) レンベル (軽食にもなるバナナの葉に包んだインドネシア風チマキ)
- 3) チュミ・チャ・カンクン (イかと空芯菜の炒め物)
- 4) 夏の味! インドネシアのデザート

参加の方は、エプロン、筆記用具、プラスチック容器などご持参下さい。

申込み&問合せ: 042-734-5100 ('わんりい')

'わんりい' のおたより会員継続のお願いとお誘い

年会費: 1500円 入会金なし
郵便局振替口座: 0180-5-134011 'わんりい'
毎年、4月は 'わんりい' おたより会費更新月です。継続会費(1500円/年)の納入(上記)をお願いします。新規入会も歓迎します。

'わんりい' の名は、'万里' の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催しています。また、2月と8月を除いて年10回、会報 'わんりい' を発行しています。

入会はいつでも歓迎しています。会費は、おたより制作費と送料及び活動のサポートに当てられています。

活動の様子は、おたより又は 'わんりい' HP をご覧ください。

問合せ: 042-734-5100 (事務局)

- 6月定例会 6月18日(月) 田井宅 13:30
 - おたより発送日 6月28日(木) 田井宅 13:30
- どなたでもご参加で来ます——

2007年特別企画〈大唐王朝290年〉講師: 荘 魯迅

290年の統治を誇った唐代に焦点を絞り、人物、政治、経済、文化、軍事などに渡って系統的にその全貌を掴む、全6回の講義(5/26・終了 6/23 7/21 9/22 10/27 11/24)

6月23日 第二講 人物篇

① 文官、武将列伝

魏徵、李靖、張九齡、郭子儀、顔真卿、李徳裕、牛僧孺

② 后妃列伝—長孫皇后、楊貴妃、何皇后

* 全講義内容の詳細は、同封スケジュール表をご覧ください、或いは下記の岡村景孝氏にお問合せ下さい。

◆ 場所: 台東区民会館会議室9F など (☎03-3843-5391)

東京メトロ銀座線浅草駅・東武伊勢崎線浅草駅より徒歩3分/都営地下鉄浅草線浅草駅より5分

◆ 時間: 13:30 ~ 16:00

◆ 受講料: 1回2,300円 ◆ 最小催行人数 30名

* 講義の日程や会場の都合により、内容の変更があります。

◆ 主催: 長江の会

◆ 【申込み・問合せ】

mail@k-okamura.com (岡村景孝)

☎ 090 (2328) 4723 (岡村景孝)